

# 安楽寺だより

第 6 号

2面 親鸞聖人のご生涯（後世を祈る）  
 3面 坊守 別院で定例法話  
 4面 仏教豆知識（お経）

編集・発行 安楽寺住職 吉田 和良  
 名古屋市瑞穂区井戸田町一の八〇  
 電話 〇五二（八四一）二六〇六

## 多生曠劫この世まで

あはれみかふれるこの身なり

## 一心帰命たへずして

奉讃ひまなくこのむべし

## 聖徳奉讃

宗祖親鸞聖人  
 七百五十回御遠忌  
 第一期法要  
 中止される

# 震災被害者の方と悲しみとともに

三月十一日に発生した未曾有の巨大地震と大津波によって、東北・関東をはじめ、国内の広範な地域に甚大な被害がもたらされ、なおかつ、原子力発電所はきわめて深刻な事態が続き、今なお全く予断を許さない状況にあります。

まず、このたびの震災により生命を奪われた、実に多くの方々に、心から哀悼の意を表しますとともに、一瞬にして大切な人を亡くされ、それまでの生活の場を失われ、また家族の安否がわからず、探す手だてもないという、本当につらく悲痛としか言いようのない毎日を、ひたすらに耐え、懸命に生きておられる全ての皆様に心よりお見舞い申し上げます。

このたびの大震災に伴い、本山東本願寺での宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌の第一期法要が中止されました。ご法要の参拝を

待ち望んでおられたご門徒の皆様には大変ご迷惑をおかけしまして深くお詫び申し上げます。四月以降に御遠忌の開催が決まりましたら、改めてご案内致しますので、宜しくお願い申し上げます。



東本願寺御影堂門前

後日、寺より災害救援金のお願いをさせていただきますので、ご協力のほど、衷心よりお願い申し上げます。

# 親鸞聖人のご生涯

## その二 後世を祈る

親鸞聖人は比叡山での修行に行きづまり、ここでの学びを棄てた後、六角堂に百日間籠られます。

六角堂は聖徳太子が建立したと伝えられるお寺で、現在も京都の街中にあります。観世音菩薩をご本尊としており、当時、人々がいろいろな苦しみ・悩みなどの問題を抱えて、どうしたらいいかわからなくなった時、その解決の道を祈り求める場所でもありました。聖人もまた修行の行きづまりの中で、聖徳太子に解決の道を教えていただこうとして参籠されました。

妻の恵信尼さまのお手紙には「聖人は、後世を祈られた」と語られています。「後世」とは、この世の生が終わった後の世を指しますが、聖人にとって「後世を祈る」とは、未来という方向を失ってしまい、生きていけなくなってしまう現在のいのちのあり方をあらわしています。自分の努力ではどうすることもできないわが身を聖徳太子の前に投げ出されたのです。

そして、『いずれの行もおよびがたき身』(どのような修行も果たすことが出来ないこの身です)―歎異抄―と一歩も歩むことができない自分に開かれる仏道を願い求められたのです。

## 『いずれの行もおよびがたき身』

参籠が終わりかける九十五日目の暁(あかつき)のことでした。

『行者宿報設女犯 我成玉女身被犯 一生之間能莊嚴 臨終引導生極楽』と聖徳太子から夢告を受けられました。道を求める聖人に「たとえ戒を破ったとしてもあなたを救いとげよう」と呼びかけられました。

戒を保つ者も破る者も、また男性も女性も、分け隔てなく救う。つまり「自分ではどうすることも出来ない身であるからこそ助けずにはおかない」と、全てのひとが救われる大乘の仏道に出会われたのです。



宗祖聖人御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」

## 別院での法話を終えて 坊守 吉田滋代

二月二十一日(月)東別院で二度目のご法話をさせていただきました。震災の前で、あのような惨事が起こるとは誰も予想だにしませんでした。ニュースを見る度、心痛むばかりです。心から哀悼の意を表します。

法話で「幸せとは何か?」というお話をさせていただきました。チリの鉱山事故の救出の記事から、あたりまえと思っていたことが、如何に感謝すべきことであつたかと。

その十数日後、悲惨な震災が起こりました。健康であること、お金があることも幸福のひとつでしょう。しかし、それならば、病氣の人、貧しい人、今回のような惨事にみまわれた方々は皆、不幸なのでしょいか。

伊藤元先生が『幸福の量は、謝念の量に等しい』とおっしゃいました。本当の幸せとは、「どんな状況にあつても、感謝する人がいる、感謝できることがある、感謝する心をもつことができる」ということではないでしょうか。

名古屋教区の御遠忌教化運動方針に

## 「幸福の量は謝念の量に等しい」



東別院対面所にて

『不安に立つ』という言葉があります。何だかわかりにくいと思われる方も多いかもしれませんが、これは「身に起きた現実をしっかり受け止めて、その中で 教えのもと 勇気を持ってその上に立って生きていく力」を表しています。被災された方々は大きな悲しみと不安の中で、それでもなお、強く生きぬこうとしておられます。まさに『不安に立つ』強さと逞しさを教えてくださっていると感じました。

当日は、六十名を越えるご門徒様が、私の拙い法話にいらしてください、改めて身の幸せに心から感謝申し上げます。

## 福田朝子作品展を開催

三月四・五日安楽寺会館にて、創作人形・福田朝子作品展を開催いたしました。

福田さんは、人形作りを始められて三十年あまり。「母」をテーマに女性の体つきや衣服など、ふだんの生活がにじみ出ている作品ばかり七十点を展示いただきました。

「いるいる、こういうおばさん」「うちのおばあちゃん、こうだった」と、思わず笑みがこぼれる見学の方に、にこやかに応対される福田さん。

一つの作品を作るのに二ヶ月半を費やし、一年でできる作品は五点ほどだとか。「人形作りに私自身が助けられました。いろいろあつても、五分針を持って、ずっと忘れます」と、歩んでこられた人生を振り返る福田さんの顔が作品ひとつひとつと重なって見えました。



# 仏教豆知識

## 第六回



### お経

お経とは、私たちが幸せに生きていくための「人生の教科書」であります。

お釈迦さまが、毎日仏弟子に説かれた説法が、「お経」として現在まで伝えられているのです。経典が、後に中国を経由して日本に入ってきて来ました。それは、聖徳太子の時代のことでした。

その当時の旅程は、交通が未発達のためにとても難所が多く、文字通り命がけのことでした。そんな先人の「ご苦労のおかげで、今日の私たちがお経を手にすることができ

漢字に翻訳されたお経は、現在数千部ありますが、私たち浄土真宗でいただくのは、阿弥陀仏の他力の教えを説く、

- ・ 『仏説無量寿経』
- ・ 『仏説観無量寿経』
- ・ 『仏説阿弥陀経』

の浄土三部経といわれる三つのお経です。その中でも、親鸞聖人は『仏説無量寿経』を「真実の教」として、特に仰いでいかれました。

故人の命日に、お経をお勤めいたしますのは、決して故人のためにしてあげるといふ心ではありません。亡くなった親しい方々を偲びながら、私自身がほとけさまの「み教え」に会い、「生きていてよかった」といえる喜びを聞かせていただく、大切なご縁であります。

## 東本願寺 被災者支援のつどい



毎日のテレビや新聞などで、大勢の皆様が身も心も辛い生活をしておられる東北・関東地方の被災地の報道を見て、こころが痛みます。一日も早く「普通の生活」ができますようにと、願わずにはおれません。

宮城県知事が、「全国の皆様が、今は注目してくださるが、月日が経つと被災者の悲しみや頑張る姿を忘れてしまうのではないかと、危惧しています。」と語っておられました。わが身・わが地域にも起こりうることだとしつかり受け止めて過ごさなければと思う毎日です。